

平成 28 年度第 2 回石狩市学校給食センター運営委員会 会議録

石狩市学校給食センター

【開催日時】 平成 29 年 2 月 1 日(水) 午後 6 時 00 分～午後 6 時 30 分

【会 場】(仮称) 石狩市学校給食センター会議室

【出席委員】 大西二生委員長、村田まり子副委員長、大嶋浩司委員、榎本恵委員、小笠原英史委員、大西孝則委員、昇洋一委員、内山真里亜委員、小谷千里委員、荒川義人委員、三島照子委員、小林靖博委員

【傍聴者数】 8 名

【事 務 局】 成田和幸学校給食センター長、田村和人厚田学校給食センター長、近藤和磨給食担当主査、工藤隆之給食担当主査、塩谷峰加給食担当主事、土谷友恵栄養教諭

【会議次第】

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 報告事項
 - ①(仮称) 石狩市学校給食センターの開設について
- 3 その他
- 4 閉会

【会 議 録】

○(近藤主査)

それでは、ただ今から「平成 28 年度第 2 回石狩市学校給食センター運営委員会」を開会いたします。

本日は御多忙の中、そして悪天候の中お集まりをいただき誠にありがとうございます。今回は市役所ではなく、初めての試みとして学校給食センターで運営委員会を開催することになりました。この施設は、バス停からの距離、会議内容の録音などに不安がありますが、今回の状況をみて次回以降の会場を決めたいと考えております。

本日の会議は委員の皆さま全員が出席しており、石狩市学校給食センター条例施行

規則第5条第1項の規定に基づき、本日の委員会が成立していることを、御報告申し上げます。

前回の運営委員会を欠席された、村田まり子副委員長、大西孝則委員、小林靖博委員は、本日が委員改選後初めての委員会でございます。3名の委員は、恐れ入りますが順番に一言御挨拶をお願いいたします。それでは、村田副委員長からお願いいたします。

○（村田副委員長）

～自己紹介～

○（近藤主査）

大西委員、お願いします。

○（大西委員）

～自己紹介～

○（近藤主査）

小林委員、お願いします。

○（小林委員）

～自己紹介～

○（近藤主査）

ありがとうございました。それでは、委員長に、このあとの議事進行をお願いいたします。

○（大西委員長）

皆さま、お疲れ様です。本日は会議の後にこの新センターの内部見学が予定されているとのことです。円滑な議事進行に努めて参りますので、御協力を宜しくお願いいたします。

それでは早速、議事を進めて参ります。報告事項「（仮称）石狩市学校給食センターの開設について」事務局より報告をお願いします。

○（成田センター長）

老朽化が進む本市学校給食センターの整備にかかる経緯経過につきましては、前回昨年10月の本委員会において説明申し上げたところでございますが、今回は、その新しく整備された新センターについてご説明申し上げます。

まず、表題の「（仮称）石狩市学校給食センター」という名称について申し上げます

と、条例改正の関わりがございます。改正前の「石狩市学校給食センター」及び「石狩市第2学校給食センター」を統合し、改正後は新しいセンターの名称を「石狩市学校給食センター」とし、位置も、新たな建設場所である「石狩市花川北7条1丁目27番地」に改めるものでございまして、この改正条例の施行は本年4月1日からでございます。今年度中、今現在はまだ、花畔のスポーツ広場向かいにある施設が「石狩市学校給食センター」となっているものでございます。従いまして、3月いっぱいまではこちらの新センターは、「仮称」をつけて呼ぶこととなっております。

新センターの概要ですが、平面図に従った施設内の仕組みなどについては前回ご説明しておりますので、それ以外の点につきましてご説明いたします。お手元の資料をお開き願います。安全安心に配慮した結果として、それぞれの作業工程ごとに細かく部屋を仕切り、食材交差を予防する間取りとなっております。

新センターになってからの改良点といたしまして、まず1点目、食缶の性能向上でございます。温かい食品は温かく、冷たい食品は冷たいまま教室に届けるために高性能断熱食缶を採用しました。缶の形も、汁もの・フライもの・和え物・デザートそれから米飯用と、5種類用意してございます。

2点目に、従前から強化磁器食器を使用していましたが、このたびその種類を増やし6種類用意いたしました。カレーのときはカレー皿、ラーメンのときは丼など、献立に合った食器を提供します。

3点目に箸・スプーン・フォークを毎日セットで提供いたします。箸とスプーンですとか、スプーンとフォークなどセットで提供し、子どもたちがそれぞれ食べやすい使いやすいカトラリーを選ぶことが出来ます。

4点目に、自家炊飯により、温かいご飯を温かいまま教室に届けます。子どもたちが自分たちで盛り付けることによって各自適量を食べることが出来ます。以上の4点が、大きく進歩したポイントでございます。

次に、新センターオープンまでの今後の作業工程について申し上げます。

この施設は昨年12月に竣工し、引渡しを受けた後、現在も各種備品の納入を受けている最中でございます。2月・3月は毎週末に各種設備機械器具の使用法の習熟や調理の演習を繰り返し、4月からの本番にむけて安全操業の熟度を高めて行こうとしているところでございます。

なお、3月27日、つまり3月最後の月曜日には5千食のテスト調理を予定しております。その日は各学校にも配送し、本番さながらの演習を行おうとしているものです。

また、オープニングセレモニーの開催についても検討中でございます。そちらも明らかになり次第、ご案内させていただきます。説明は以上です。

○（大西委員長）

ありがとうございます。前回と同様に、会議録を作成するために録音をしておりますので、発言する際には挙手をして、お名前を言ってからお話するようにお願いしま

す。それでは、ただ今事務局から報告のあった件について、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。少しお時間を取りますので御検討ください。

○（成田センター長）

その前に一つ事務局からよろしいでしょうか。お配りの資料の中で、右ページに「高性能断熱食缶の使用」というところがありまして、5種類の食缶がありますけれども、汁食缶という表記が二つあります。これは大きさが違いまして、用途がデザート用に使うものと、味噌汁などの汁物に使うものと2種類あるのですが、後程表現の仕方は整理して直したいと思います。今回はこのまま汁食缶となっておりますけれども、御理解下さい。宜しくをお願いいたします。

○（大西委員長）

この写真というのは同じものを写しているのですか。

○（成田センター長）

いえ、違う種類のものです。

○（大西委員長）

わかりました。同じように見えますけれども、大きさが違うということで、片方はデザート用ということでよろしいですか。

○（成田センター長）

はい。

○（大西委員長）

どちらかがデザート食缶の写真であるということで5種類がありますということを確認させていただきます。

私から言うのも何ですが、食器が6種類になりますけれども、これまで使っていた食器というのはあるのでしょうか。全部新しいものになるのですか。

○（成田センター長）

はい、全部新しいものになります。今までは3種類でした。今まではここで言う丼とカレー皿、それから飯碗もありませんでした。汁椀と、お皿が菜皿と小皿という2種類があっただけです。それと今までは箸の日は箸だけ、それからスプーンの日はスプーンだけという提供だったのですが、それだとなかなか食べづらいということもあったことから、箸とスプーンとか、スプーンとフォークと2種類一緒に提供して、それぞれ食事時にお子さんたちが自由に使いやすいものを使って食べるというふうにこれからは改善されます。

○（大西委員長）

ついでに私からもう1点、先日の校長会議の際にも説明を受けたのですが、今までは最大3枚のお皿だったのですが、これからは6種類いっぺんに出てくることは無いと思うのですが、最大何皿を出す予定となりますか。学校現場としては課題となりますから。

○（成田センター長）

これからは4種類です。汁碗、飯碗、それから小皿と菜皿です。

○（大西委員長）

それでは最大4種類のお皿が付くという理解でよろしいでしょうか。

○（成田センター長）

井の時は飯碗の代わりに丼、カレーの時はカレー皿というようになります。

○（三島委員）

～挙手～

○（大西委員長）

三島さん、どうぞ、お願いします。

○（三島委員）

この丼類は陶器ですね。

○（成田センター長）

そうです。強化磁器食器です。

○（三島委員）

すごく重いと思うのですが、4種類使うと、子どもたちは大丈夫なのかという確認なのですが。

○（成田センター長）

重さは今までと同じようなものですから、極端に増えるわけではないと思います。

○（三島委員）

種類もございますよね。そしたら食器を入れるバスケットも大きくなっているのですか。

○（成田センター長）

一クラス分のものが食器カゴに入っていて、それぞれカゴから食器を出して、ご飯は自分たちの器によそって食べるという形となっております。

○（三島委員）

そうですか。低学年用のトレイとかは御用意されなかったのですか。

○（成田センター長）

給食センターからはトレイは用意していません。ただ、今現在、学校ごとに低学年の、特に1年生とか、ナプキンを忘れたりした時にその代わりとしてトレイを学校側から貸し出すという形で、そういった要因での在庫は各学校に用意してあります。

○（小林委員）

～挙手～

○（大西委員長）

小林さん、どうぞ。

○（小林委員）

HACCAP対応とかはされているのでしょうか。

○（成田センター長）

今まで古いところではやっていなかったのですが、今度は新しい施設ですから出来ることはいろいろと対応していきたいとは考えています。

○（小林委員）

今時点ではまだ対応していないということですね。

○（成田センター長）

そうです。

○（小林委員）

アレルギーの点で、食器とか洗浄されると思うのですが、その時にコンタミについてとか、何か対策というのはされているのでしょうか。

○（成田センター長）

そのために最新の厨房の設計が、それぞれ部屋が細かく仕切られていて、そこで食材交差を防ぐような形となっています。後程実際に中を見学してもらおうのですが、食

材の流れも、この（配布資料の）図の1階平面図の右側に米とか、肉、魚類とか、野菜類とかの搬入口と、まず入り口が分かれておりまして、その後の下処理の部屋とかも細かく分かれています。その後の下処理が終わったものは上処理に移るのですが、その時調理員など人間は移動しないで、食材だけが移動していく、パスしていくといった最新の衛生環境を整えています。

○（小林委員）

実際に食器とかが洗われた後に、拭き取り検査とかはされるのでしょうか。

○（成田センター長）

拭き取り検査までは具体的な作業は考えていなかったのですが、今回はコンテナプールなどで食器、食缶類が保管されるのですが、高温で熱処理されて、洗浄されて、ただちに乾燥させてということで、乾燥させることによって雑菌の繁殖を抑えるという考え方、対応をしております。厨房内も全て床はドライ環境ですので、常に床は乾燥した状態にしておくということで床暖房も入っている状況です。

○（小林委員）

自動で洗浄されるということなのですか。

○（成田センター長）

そうです。

○（小林委員）

その時にアレルゲンというのはどうしても熱とかで失活するものではないので、実際にどれくらいきちんと洗浄されているのかというのを確認すべきだと思うのですよね。

○（成田センター長）

そうですね。ある程度目視などは行いますが、試薬での検査というのは当初は予定していません。

○（小林委員）

実際にアレルゲンというのが、たんぱく質が残っているということは目視では分からないので、きちんとたんぱく質とか、アレルゲンの検査キットというのがあるので、そういうので検査をしないと、アレルギーのある方については害になってしまうのではと思うのですよね。

○（成田センター長）

そうですね。今後4月までのオープンまでの間、練習、食器洗浄などの作業を繰り返し練習して、本当にどれくらい落ちるのか、その辺の見極めと言いますか、繰り返し練習をしていきます。当分の間は厨房器機のメーカーの人間も立ち会って、一緒に調理をする「石狩市公務サービス株式会社」という会社なのですが、調理員の皆さんと練習して行きます。

○（小林委員）

すみません、まだよろしいですか。アレルギーの対応というのは27品目ということで表示の義務がありますが、それ以外に例えばお子さんに合わせた対応というのを個別にしていこうということなのでしょうか。

○（成田センター長）

今現在も、御本人、御家族の申し出によって、この日の献立にはこういったアレルギーが含まれていますというのを事前に、前の月に「アレルギー明示献立表」というものを個別に、センターと学校と保護者に配っています。今現在これからは、お医者さんの診断に重点を置いて、「生活管理指導表」の提出をなるべく求めることを心掛けていくことにしています。ただ、すぐに「生活管理指導表」がもらえない人もいますので、当分は御本人、御家族の申し出には従いますが、やはり客観的なお医者さんの見立てがあった方がお互い間違いはないですよということはこれからもお伝えしていく予定となっています。

○（小林委員）

アレルギー対応のメニューというのは、個別に作るものなのですか。

○（成田センター長）

いえ、今現在アレルギー対応食は作っていない状況です。これからは新センターが新しく出来て、アレルギー食調理室も用意していますので、ここで本当に個別の対応食が必要な児童生徒に対しては作っていくこととなりますが、それは1年半後、平成30年の夏頃を目処に考えています。

○（小林委員）

わかりました。ありがとうございます。

○（大西委員長）

他に皆さんいかがでしょうか。

私から一つ、さらにですが、給食センターに関わって、減価償却等を始められると思うのですが、より改善を目指すために予算処置等と言いますか、センターと

してはどのように求めていくこととなるのでしょうか。施設設備の更なる改善を求めて、今あるこの状態ではなく、今後さらによくしていくことについて、予算を求めていく考え方はあるのでしょうか。

○（成田センター長）

他所の自治体の、先進地の給食センターをいろいろと参考にしながら設計してつくってきました。今現在で最善策だと思っているのですが、いろいろと初めて運用してみて、今時点で気付かない部分も出てくるかもしれませんので、当分試行錯誤と言うか、実際の作業、経験を踏まえて、必要なものは当然要求していくべきものと思います。

○（大西委員長）

学校現場を代表する者として、給食センターから出られた状態から、最後回収して戻ってくるところは給食センターの範囲にはなりますけれども、学校現場は来たところから、食べさせて、食缶や食器等を戻すところまでありますので、学校現場の意見もこれから出るかと思いますので、いろいろと斟酌していただけるかと思いますので、宜しくお願いしたいと思います。

○（成田センター長）

こちらこそ宜しくお願いします。

○（大西委員長）

私ばかり話してすみません。せっかくの機会ですので、皆さんいかがですか。事務局から他、補足するようなことはありませんか。

○（成田センター長）

いえ、ありません。

○（大西委員長）

村田副委員長ですとか、荒川委員も、よろしいですか。

○（荒川委員）

この会議室にこだわるようではけれども、食育など展開されていくということで、新年度、給食の配送業務とかは、もちろんいいのですけれども、それ以外のプログラムについての計画というのは、そろそろ立案、御検討されているのでしょうか。

○（成田センター長）

ここの部屋が 40 人程度入れるのですが、P T Aの人が学校に行って給食の試食会

などやっていたのですが、この場所でも出来ますので、それはP T Aさんに限らず一般市民の方についても、予約申込みがあれば午前中、大人向けの食育の講座をやって、その後給食を試食していただくというような事業をこの部屋で展開していきたいと思っております。

○（荒川委員）

この資料に書いてありましたので、もうそろそろ具体的なプログラムなど検討されている時期なのかなと思うのですが。

○（成田センター長）

詳細については今のところまだ決まっていないのですが、大人向けの食育をするという気持ちだけは固まっています。

○（荒川委員）

そうですか。

○（村田副委員長）

いいですか。

○（大西委員長）

どうぞ。

○（村田副委員長）

調理従事者の方々というのはどのようになっているのでしょうか。

○（成田センター長）

「石狩市公務サービス株式会社」という会社がありまして、そちらにうちは業務委託をしています。

○（村田副委員長）

業務委託。

○（成田センター長）

はい。そちらで調理員さんが作業を進めております。ですから我々行政としては委託先である「石狩市公務サービス株式会社」に対してこの給食についてはこういうふうにやってくれといろいろ指示をします。そして会社はそれを受けて調理員に細かい指示をするということでありまして。後程館内を御案内しますが、裏側の方には調理員さんたちのミーティングルームとかがありまして、そこで毎日の仕事の段取りなどを

打ち合わせする形となります。

○（大西委員長）

確認ですけれども、その委託するところは、現在も委託して作っていらっしゃる会社ということでよろしいでしょうか。

○（成田センター長）

そうです。

○（三島委員）

～挙手～

○（大西委員長）

三島さん、どうぞ。

○（三島委員）

委託されている「石狩市公務サービス株式会社」で、よく調理員さんを頻繁に募集しておりますけれども、どういう状況なのでしょう。

○（成田センター長）

重労働だとは聞いております。

○（三島委員）

人数とかはきちんといるのですか。

○（成田センター長）

そうですね。もし欠員があれば、直ちに募集して補充しています。

○（三島委員）

足りないということはないのですか。

○（成田センター長）

今までは建物が古かったものですから、スペースにも制約がありましたし、むやみに頭数がいても困りますが、今度4月からは新しいセンターですから、新しいセンターで当初我々が計画している人数の中でやっていきますが、やっていく中でいろいろ過不足があったらお互い協議していくことになるかと思います。

○（小林委員）

～挙手～

○（大西委員長）

小林さん、どうぞ。

○（小林委員）

災害対応の時に、停電時でも 1,000 食炊飯可能とありますが、これはどのような形で炊飯するのでしょうか。

○（成田センター長）

自家炊飯の機械があるのですが、そこにコジェネが、自家発電としてあるのです。自家発電の発電容量は小さいのですが、ご飯の炊飯施設にだけには電気が供給出来るのです。受水槽に水が溜まっていますから、停電になってしまうと水道も止まってしまうのですが、その受水槽に入っている水で、在庫のご飯を炊くことが 1 回は出来るのです。それがこの災害対応の炊き出しです。

○（小林委員）

自家発電ですね。

○（成田センター長）

そうです。

○（小林委員）

わかりました。

○（大西委員長）

わかりやすくしますけども、もし朝停電になったら、その日の給食はどうなるのですか。その日は大丈夫という答えを聞きたいなと思ってお聞きしたのですが。

○（成田センター長）

建築設計部門も、大規模停電は起きないという前提でいろいろとものをつくっておりますから、必要以上の発電施設はつくってはいないのです。ここに見合った必要最小限の発電設備しかないものですから、その辺は大規模災害が起こらないことを祈るしかないです。熱源は北ガスの天然ガスを今回から導入しています。北ガスの方からは、たとえ震度 7 の地震があっても、供給を維持できると伺っていますので、一応それを前提に設計しております。

○（大西委員長）

東日本大震災の災害を契機にいろいろな発電方法の変更があつて、もしかしたら停電が起きるかもしれないと、少し昔のこととなりましたけれども、あの時私は校長としての当事者として、今日の給食は大丈夫かと、もし止まったときに給食センターとしてはそういう情報を的確に把握して、もしも災害が起きた場合はその日はどうするのか、その翌日はどうするのか、また今日の夕方にと起きたら明日の予定はどうなるのか等々ですね、危機管理のプランとしてはイメージしておいていただければと思います。これは意見です。

○（成田センター長）

我々も迅速な判断をしていきたいと思います。

○（大西委員長）

宜しくお願いします。他に皆さんいかがですか。

○（内山委員）

～挙手～

○（大西委員長）

内山さん、どうぞ。

○（内山委員）

意見と言うか、お願いなのですが、配膳台が足りていない学校があるので、出来ればもし予算をつけていただければしていただいて、どこの学校も同じというような感じにしていだけたらなと思いますので、宜しくお願いします。

○（成田センター長）

それにつきましては、2月の中旬以降、全ての学校に入って行って配膳台とかダムウェーターなどを確認して、今一度確認して過不足がないよう対応を考えています。ただむやみに道具を増やしても保管場所がないとか、そういった施設的なものもありますから、それぞれ学校ごとに最善の策を考えていきたいと思います。

○（内山委員）

ありがとうございます。もう一点あるのですが、給食を開始する前に、このような、結構今回変更点があると思うのですが、その変更点について学校におりてくるのはいつぐらいになりますでしょうか。

○（成田センター長）

今後も、給食担当者会議ですとか、そういった場面においていろいろと具体的な説明をしていきたいと思います。

○（内山委員）

毎年、給食担当者会議は4月二十何日とかに行われていると思うのですが、それだともう給食は始まっているので、出来れば始まる前の3月とか4月頭とかは厳しいかなと思うのですが、出来れば3月とかに一回担当者を集めてこういうふうに変わりますということを全体周知していただいた方が学校としてはやりやすいと思うので調整をお願いします。

○（成田センター長）

はい。それを踏まえて2月下旬に開催を考えています。

○（内山委員）

そうですか。宜しくをお願いします。

○（大西委員長）

学校対応としては、校長会が責任を持って情報伝達しますし、それから担当者でなければ都合が悪い部分も、今2月下旬とありましたので、混乱無く、学校現場で給食が配食されるという状況設定をつくってまいりますので、何かありましたら学校等にも問い合わせていただきながら、給食センターでも構いませんので、そのような形で不安のない状況で新給食センターを稼動出来る状況をつくって参りたいと思いますので宜しく御理解いただきたいと思います。

それで今の件に関わって、校長の立場から言わせていただくと、私は中学校ですから、中学生ですのでこれぐらいは出来て当たり前が、小学1年生になると、なかなか難しい場面もあるのかなと思うのです。そういう意味で各学校、例えば配膳台に不都合があれば、小学校1年生でも運べるような、形の整った配膳台等を要望して参りますので、出来れば予算措置して改善していただければという趣旨を先程述べさせていただきましたので、学校現場の声をお受けしていただければと思います。やはり中3と小1で、要点は違うのですけれども、同じものではないかなものかということもありますので、学校としても要望して参りたいと思いますので宜しくをお願いします。

あと皆さんいかがですか。

私校長ですけれども、学校の方の要望は的確に、要求だけは間違いなくして参りたいと思います。ただ次にお金がと言われたら、なかなか学校もそれ以上のことは難しいのですけれども、学校としては子どもの命と安全を守ることを第一にして、今後も取り組んで参りたいと思いますので、その辺は給食センターと学校の方でも連携を取って参りたいと思います。あと意見等なければ、この会議を終わりたいと思いますがよ

ろしいですか。センター長もよろしいでしょうか。

○（成田センター長）

はい。

○（大西委員長）

それでは以上をもちまして、本日の給食センター運営委員会を閉会とさせていただきます。足元の悪い中、お越しいただきましてありがとうございました。またどうぞ宜しくお願いいたします。この後見学がありますので、センター職員の指示に基づいて見学して参りたいと思いますので宜しくお願いします。

○（成田センター長）

ありがとうございました。

<午後 6 時 30 分 終了>

上記会議の記録に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 29 年 2 月 23 日

石狩市学校給食センター運営委員会

委員長 **大西 二生**